

ヨーロッパのバロック建築

対抗宗教改革から宮廷芸術へ

定員・回数：60人・3回

時間・場所：午前 10:00~11:30・研修室

費用：受講料 600円

講師：愛知淑徳大学 創造表現学部 教授 河辺泰宏

ローマ・カトリック教会の対抗宗教改革から生まれたバロック芸術。絵画・彫刻・建築・音楽が一体となって宗教的高揚感を演出する劇的な様式は、主にカトリック信仰の強いフランス、スペイン、イタリア、南ドイツに広まり、その華やかな性格から絶対王権時代の宮廷芸術へと変貌を遂げていきました。その拡大と変容ぶりを17世紀から18世紀の宗教建築、宮殿建築、劇場建築それぞれについて解説します。

5/28(日)	<h3>対抗宗教改革から始まったバロック建築</h3> <p>プロテスタント勢力の拡大に対抗するためカトリック教会の中核ローマから発信されたバロック芸術。ベルニーニ、ボッロミーニの天才建築家たちが始めた壮麗な建築様式は、やがて北イタリアや南イタリアへと伝わって、さらにゴージャスな建築を生み出しました。</p>
6/25(日)	<h3>バロックの劇場建築と音楽</h3> <p>反宗教改革運動のローマで民衆の感性に訴えかける宗教音楽劇「オラトリオ」が誕生します。さらに、フィレンツェの宮廷で「オペラ」が生まれ、その音楽的演出を際立たせる専用の劇場建築が、バロック芸術の伝播と共にヨーロッパ各地に建設されるようになりました。</p>
7/30(日)	<h3>宮廷芸術として広まったバロック建築</h3> <p>当初、宗教性の強かったバロック芸術が、カトリック教国のフランス、スペイン、南ドイツなどに広まり、華やかな宮廷芸術として開花していきます。ブルボン王朝時代のフランスを中心に17世紀から18世紀にかけて興隆したバロックの宮殿建築とその変遷を概観します。</p>



ヴェルサイユ宮殿